

所属・資格 体育学科・教授

申請者氏名 水島 宏一

研究課題		器械運動及び体操競技における類似技に関する研究
報告の概要	研究目的 および 研究概要	運動学習は、専門的な知識や指導力がなければ、なかなか上達しない。しかし、教育現場では、民間スポーツクラブのように各種目の専門の指導者がいるわけではない。とくに、器械運動においては、マット運動や跳び箱運動、鉄棒運動の3種目があり、さらにその種目毎に多くの技が存在する。さらに、器械運動は、非日常的な運動であることから非常に指導が難しいとされている。そこで、指導が難しい器械運動を器械運動の専門性の高い指導が指導することで、学習者の器械運動に関する知識獲得にどのような効果や技術習得に影響を与えるのかを明らかにし、指導に役立つ基礎資料を得ることを目的とする。
	研究の結果	公立小学校の授業において学習者対象の検証授業を実施し、単元学習前後に次の各調査を実施した。結果は下記の通りである。 1) 診断的・総括的授業評価：学習前後の「楽しむ」「まなぶ」「できる」得点には有意な高まりが見られた。互いに動きをみ合って助言し合う活動の充実や動きの高まりをとおして学習を楽しむことができ、検証授業の妥当性が認められた。 2) 運動能力調査：いずれの運動局面においても、ポイントの習得度には有意な高まりが見られ、さらに、開脚前転の達成度にも有意な高まりが見られた。 3) 知識テスト：GT や筆者からの言葉かけにより学習後の各運動局面のポイントの正答人数は飛躍的に増えた。
	研究の考察・反省	専門的能力を有する指導者による授業の効果として、学習者同士の協働的な学びの充実や他者とのかかわりの中での自己を肯定的に認めようとする自尊感情の高まりが明らかとなっている（鈴木・水島，2018）。そして、本研究から、技の技術にかかわる体の動かし方といったポイントの理解を深め、知識を獲得する上でも効果的であることが明らかとなった。 以上のことから、器械運動のように日常生活の中で経験できない運動は、専門的能力を有する指導者の指導技術や運動技術といった知識を研修会や授業研究などを通して習得し、その得た知識を実践しながら指導力を高める必要がある。本研究の課題として、一箇所の学校現場での事例であることから、すべての教育現場に役立つとは言えない。今後の課題として多くの現場で検証授業を行い、さらなる検討が必要である。
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	研究会 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	1. 日本スポーツ教育学会 第39回学会大会 オリンピック・パラリンピック教育の効果の検討：運動に関わる知識の習得に着目して 2019年9月22日、23日/早稲田大学早稲田キャンパス 2. 日本体操競技・器械運動学会第33回大会 トップアスリートの授業介入を含むオリンピック・パラリンピック教育における知識の獲得に対する効果の検討 令和元年12月15日(日)/駒澤大学駒沢キャンパス 3. 日本コーチング学会第31回大会 倒立前転の学習に関わる知識についての検討 2020年3月17日-18日/鹿屋体育大学 新型コロナウイルスのためWEB研究発表へ代替 日本体操競技・器械運動学会 学会誌28号投稿査読中(上記2.の研究)